

狂犬病予防及び動物愛護について(調査結果報告)

【調査の目的】

○狂犬病予防について(問1, 2)

狂犬病の予防注射は犬の飼い主が1年に1回、必ず犬に受けさせなければなりません。しかし、本県の令和6年度の犬の狂犬病予防注射率は58.7%です。「狂犬病予防注射の義務を知らない」という飼い主の方も、愛犬や周りの方々の命を大切に想う気持ちは変わりないはずです。県がどのように情報を届ければ飼い主が毎年ワクチンを接種できるか、皆様のご意見を参考に、より届きやすい広報活動を目指します。

○動物愛護について(問3～)

古賀市にある「福岡県動物愛護センター」では、県の保健所に収容された犬や猫の譲渡事業(新しい飼い主を探すこと)を様々な動物愛護団体と協力し行っているほか、飼い主向けのしつけ方教室、ペットの飼育相談、正しい飼い方の普及啓発、動物愛護活動に携わるボランティアの人材育成などに取組んでいます。

これらの取組を通じて、県では、令和5年度・令和6年度に引き続き、令和7年度も譲渡可能な犬猫の致死処分ゼロを達成しました。

一方で、飼育環境の変化や高齢化の進行などにより、犬や猫を取り巻く課題や地域や飼い主から求められる内容等も多様化しています。

ついで、今後の動物愛護施策や福岡県動物愛護センターの取組の参考とするため、県民の皆さまのご意見をお聞かせください。県では、飼い主のいない猫の過剰繁殖による生活環境被害の軽減及び所有者不明の猫の引取数を減らすことを目的として、平成26年度から地域猫活動支援事業を実施し、地域住民が主体となって市町村が実施する地域猫活動を支援しています。

また、県が引取りした犬猫の新しい飼い主を探すため、動物愛護センターで動物愛護団体と連携して譲渡促進の取組を実施することにより、致死処分数を削減し、人と動物が共生する社会づくりを推進しています。

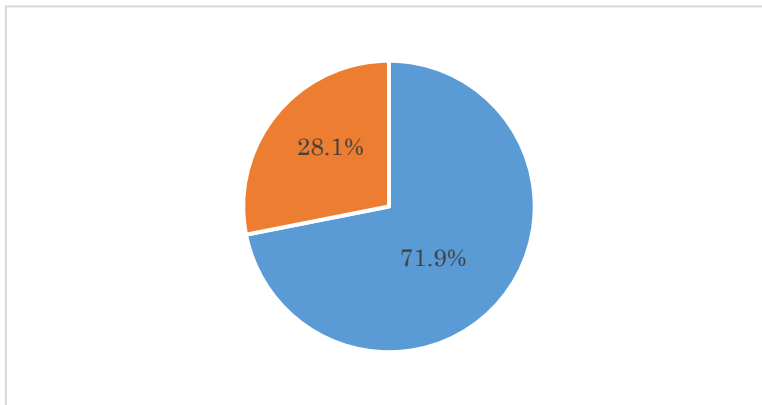
このため、地域猫活動及び犬猫の譲渡に関する取組について皆さまの御意見をお聴かせいただき、今後の施策の参考とさせていただきます。

(保健医療介護部生活衛生課)

問1 犬の狂犬病予防注射は、年に1回、必ず接種する必要があることをご存じですか。

(n=367)

選択肢	回答数	割合
1 知っている	264	71.9%
2 知らなかった	103	28.1%

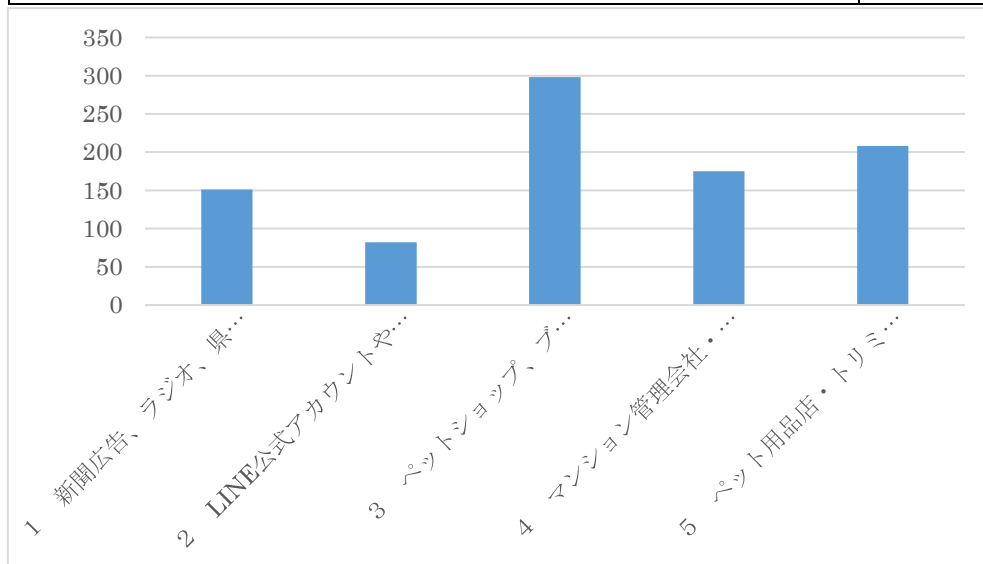


問2 行政が行う情報提供やサポートとして効果的だと思うもの(3つまで)

(n=367)

※複数回答のため延べ数

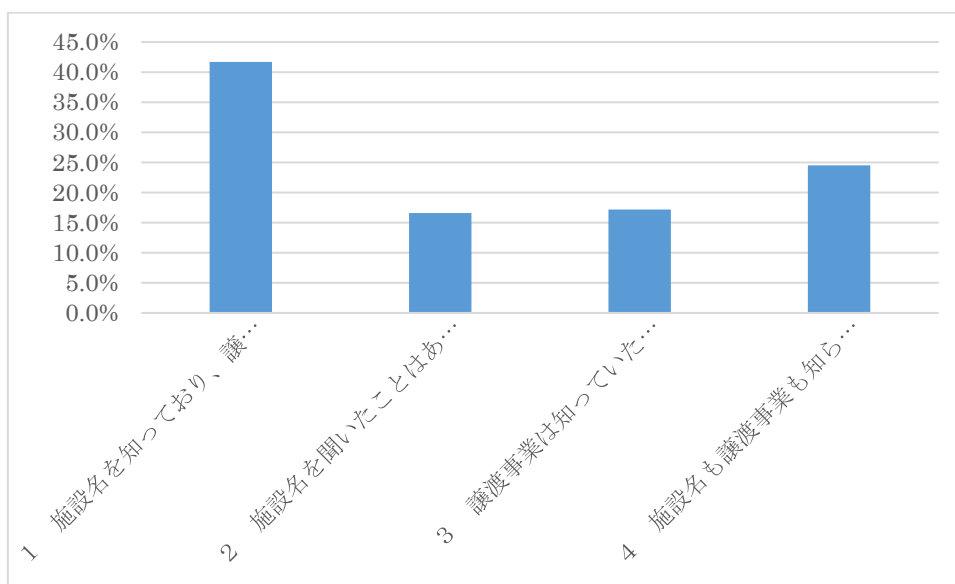
選択肢	回答数
1 新聞広告、ラジオ、県だよりによる周知	151
2 LINE 公式アカウントや動画コンテンツによる周知	82
3 ペットショップ、ブリーダー及び動物病院と連携し、手順を案内する支援	298
4 マンション管理会社・不動産会社と連携し、案内を配布	175
5 ペット用品店・トリミングサロンでの周知(ポスター・チラシ)	208



問3 福岡県動物愛護センターおよび譲渡事業の認知度

(n=367)

選択肢	回答数	割合
1 施設名を知っており、譲渡事業も知っていた	153	41.7%
2 施設名を聞いたことはあるが、譲渡事業は知らなかった	61	16.6%
3 譲渡事業は知っていたが、実施している施設は知らなかった	63	17.2%
4 施設名も譲渡事業も知らなかった	90	24.5%



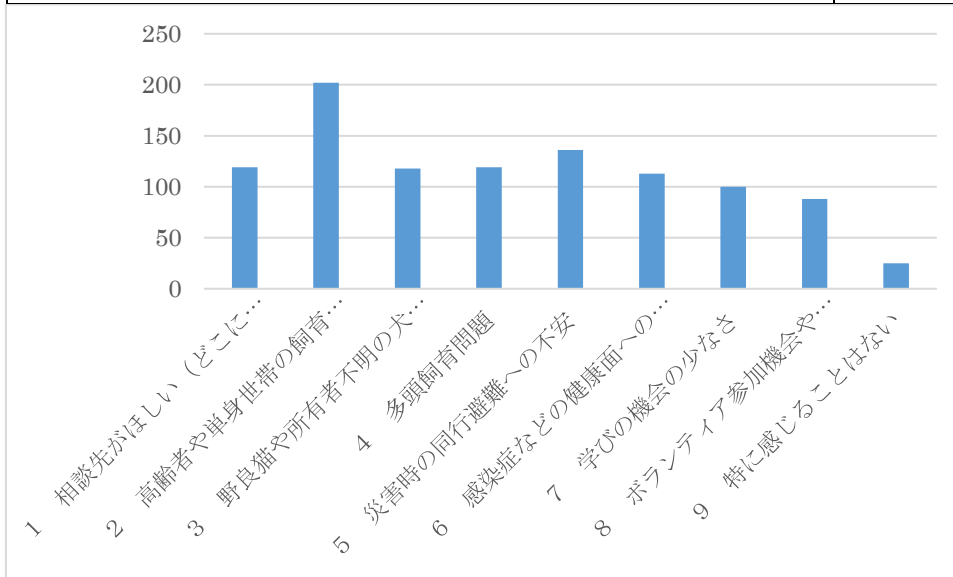
問4 ペットとの関わりについて、日常生活の中で感じること(複数選択可)

(n=367)

※複数回答のため延べ数

選択肢	回答数
1 相談先がほしい(どこに相談すればよいかわからない)	119
2 高齢者や単身世帯の飼育困難ケースの増加	202
3 野良猫や所有者不明の犬猫問題	118
4 多頭飼育問題	119
5 災害時の同行避難への不安	136
6 感染症などの健康面への懸念	113
7 学びの機会の少なさ	100

8 ボランティア参加機会や情報不足	88
9 特に感じることはない	25

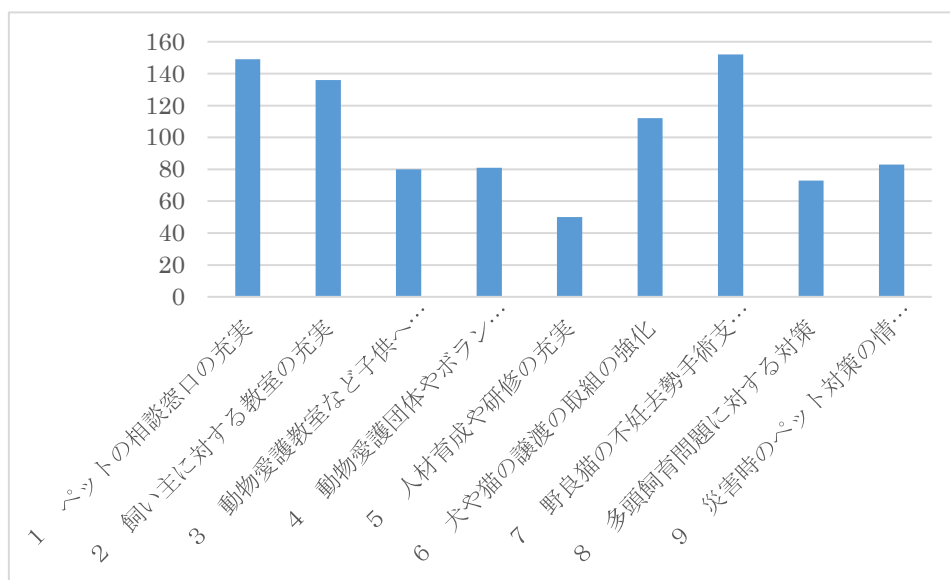


問5 今後、福岡県動物愛護センターに期待する役割(3つまで)

(n=367)

※複数回答のため延べ数

選択肢	回答数
1 ペットの相談窓口の充実	149
2 飼い主に対する教室の充実	136
3 動物愛護教室など子供への教育の充実	80
4 動物愛護団体やボランティア支援・連携強化	81
5 人材育成や研修の充実	50
6 犬や猫の譲渡の取組の強化	112
7 野良猫の不妊去勢手術支援など対策	152
8 多頭飼育問題に対する対策	73
9 災害時のペット対策の情報発信や対策の強化	83



問6 これまでの設問以外での御意見(一部抜粋)

- (1) 動物愛護センターの数を増やし、活動の活性化を図ってほしい。
- (2) 私は個人的にいろいろな国を訪れているが、狂犬病の問題は深刻である。おそらく資金的にも狂犬病の対策をする余裕がないのではないかと思います。特にアジアの途上国で路上で犬と遭遇した時はときどきであった。そのことを考えると日本は本当に素晴らしいと感じる。
- (3) 譲渡前の犬猫の保護のお金はどこからきているのか？
- (4) 予防接種について、原因がよくわからないのでなんとも言えないが、義務化されているのであれば仕組みを考える必要がある。
- (5) 狂犬病の接種について義務化に取り組んでほしい。
- (6) まずは、どど〜ん！と「ペットの相談窓口」を。ここに相談すれば、建設的な解決ができるような窓口を県民が知れるように。その、ペットの相談窓口から細分化して事案の解決に進んでいけばよいかと…。困った事があっても、どこにどのように相談したら良いのか知らない方は多いと感じます。あと、1人暮らしや高齢の方のペット飼育は、その方々が万が一、亡くなられた時に地域の行政にペットがつながるようなシステム必要。
- (7) 近隣にも野良猫や鳩に餌を与える人がおり、気持ちは分からなくもないが糞による実害もある為、取り組みとして改めて注意喚起してほしい。
- (8) ペット販売に関する許可の厳正化を行って欲しい。犬猫の展示による販売を禁止して衝動買いを防止する。生後半年未満の犬猫の販売禁止。購入時の啓発動画の視聴の義務化。
- (9) 動物を飼うということは命を預かるということなので、無責任に飼う人もいますのでペットもしっかり住民登録までとはいかないが申告する義務を徹底すべきだと思う。役所か保健所の仕事が増えるかと思うが、無責任に飼う人には罰金など、課せてもいいと思う。命を預かるという重さを分かった上で飼うようになるように。
- (10) メディアでは不適切な多頭飼育の現場を見ることがありますが、私はそのような現場を目にしたことは一度もございません。ただ、心から思うことは決して動物が悪いのではなく、ごく一部の劣悪な罪のある人間がやり続けて起きてしまっている醜い出来事なので、そのような環境を作って犠牲になる動物が今後増え続けないように行政には水際対策を行っていただきたいです。そして罪のない動物たちに酷いことを行った人物に対しての処罰も重い刑罰を科して、二度とこのようなことが再発しないような社会に国や県をあげて取り組みを行なっていただきたいと強く思います。
- (11) 必ず接種してもらえるように…しっかりと説明したり、ペットへのチップを埋め込んだりすることも整備しつつ、ハガキ等でまだまだ周知していくことが必要があると感じている。若い世代にはアプリでの管理を義務付けてはどうかと思う。
- (12) サクラ猫はいいですが、野良猫などがいると、老人や子供は拾ってきて避妊や予防接種を受けさせずに餌を与えてしまい、結果増えてしまうのではないのでしょうか？飼い主だけでなく、全ての人に正しい知識を教えるべきだと思います。立て看板の注意喚起だけでは有効とは思えません。子供の頃から学校や、地域の町内会や老人会、病院などでも命への責任について啓蒙活動をするべきだと思います。
- (13) 私自身が譲渡会に興味があります。ですが興味で終わってしまっているのは、実際に『自分が行っていい場所なのか』の想像できないからだだと思います。実際に行動に移せていない人が多いのではないのでしょうか。

- (14) 地域猫を世話するボランティアさんの経済的負担が大きすぎるので、県でもっと積極的に支援するべきだと思う。猫は野生で生活できるものではなく、遺棄した勝手な人間の責任。県民の善意にばかり甘えるべきでない。動物の殺処分など以外の外。
- (15) 狂犬病は治療薬がない危険な病気ですので、予防が非常に重要です。
- (16) ブリーダー卒業の犬猫が増えてる気がする。人間の金欲のビジネスの身勝手さによってだと思う。ブリーダーの飼育数の制限なんかを考えてほしい。
- (17) 野良猫、野良犬の被害、糞や感染症の対策にもっと力を入れてほしい。
- (18) 昔犬を飼っているときは野良猫はほとんど庭にこなかったのですが、犬がいなくなると途端に傍若無人に入ってきておしっこや糞をします。悪臭が漂ったり、金蝇がよってきて迷惑しています。まだこっそりと餌をやっている人もいます。このような人は不妊去勢手術にはかかわりたくないという人が多いと思います。野良猫対策は行政が主体となって本格的に自治組織を活用したりボランティアを募ったりして不妊去勢手術を行なわない限り解決しないと思います。人と交流できるようになった犬猫と寂しい独居老人とお見合いさせるのもいいのではないのでしょうか。その為には独居老人のいる地域に出向いて行って犬猫とお見合いさせる機会を設けるというのは如何でしょう。
- (19) 犬を飼い始めた方が適切な飼育方法やしつけ、災害時の備えについて学べる機会が増えると安心して飼育できると思います。しつけ教室や問題行動との対策といった教室もあると嬉しいです。福岡市の愛護センターでしつけ教室を行ってもらい、随分としつけが楽になりました。人と動物が安心して暮らせる地域づくりを今後も進めていただくことを期待しています。
- (20) 野良猫への動物愛護団体の主張は、退けてほしいです。
- (21) 福岡県動物愛護センターから遠い地域での出張相談や教室の実施。
- (22) ペットに対する認識、法整備は、先進国では日本は最低なので国の法整備を待つより地方が条例を整備して積極的に対応して欲しい。
- (23) 私は犬1匹猫5匹を飼っています。昨今の災害情報をみると、とても今後を心配しています。そのように考える飼い主は多いと思い、その様な住人に対し何か情報を発信してもらえるといいと思います。
- (24) 狂犬病予防にしろ、動物愛護にしろ、自己都合で動物を飼っている人は、周りの全ての人に迷惑にならぬ様、もし迷惑をかけたなら、自己弁償の覚悟を持つくらいの、自己認識を高めるのが当たり前であり、〇〇対策や、〇〇支援への公費投入は不要であり、やるべきではないと思う。
- (25) 私は犬が苦手なので、放し飼いの犬や、不適切なリードの使用による犬の脱走がとてもこわいです。狂犬病の予防接種の際などに、犬のしつけについての助言も徹底してほしいと思います。
- (26) 特に地域猫の活動にとても関心があります、実際にさくら耳の猫もよく見かけます、ただ、そのような対象から外れている猫もよく見かけます。気になるのは、自宅敷地内で子猫が生まれた場合、その住民の負担になってしまっていることです、そのような子猫を保護してくれる場所があれば助かるし、普段からも、地域猫にはえさを与えてもいい？与えてはいけない？など、色々な疑問がありますが地域でも違いがありそうだし、どこに相談していいかも判りません。

- (27) 狂犬病予防や動物愛護は重要ですが、限られた財源の中では優先順位を見直すことも必要だと考えます。まずは県民の生活を豊かにする政策や、給与・子育て・福祉など、人への投資を優先していただきたいです。税金を負担している県民の暮らしが安定してこそ、動物福祉を含めた様々な施策にも継続して取り組めると考えます。
- (28) 動物愛護よりも取り組むべき課題は山積していると思います。
- (29) 野良猫が敷地内で糞尿するのに困っています。福岡市では猫避けの器具を貸し出してくれますが、手順が面倒で使いづらいです。県でも猫避けに関する相談や器具の貸し出しなどを行なってほしいです。
- (30) 民間の保護団体も活動されていると思います。公的な補助や支援制度がもっと充実したらいいなと思います。
- (31) 住んでいる地域に動物のフンが多くて困っている。注意喚起の看板などはよく見るが、まったく効果はなさそう。野良猫・野良犬はそう多くは見ないのでモラルのない飼い主が多いと感じる。子供が遊ぶ公園や通学路にもよく落ちていて改善してほしい。
- (32) 我が家では動物を飼っていないが、テレビでも動物を扱う番組は多く動物が好きな人、飼っている人は多いのだと感じている。動物を扱うテレビ番組や SNS などで積極的に狂犬病予防接種や動物愛護に関する情報や広告を入れても良いのではないかなと思う。
- (33) 動物愛護者の気持ちは、判るが、マナーが悪い人がほんの一部いるために、ついつい、皆、悪い人と思ってしまう。散歩時のマナーの徹底をお願いしたい。散歩でなく、糞尿をさせるのが、目的になっている。糞尿場所、後始末をきちんとしてほしい。
- (34) 殺処分ゼロを一番に考えていくべきだ。
- (35) 狂犬病の予防接種の一年に一回の義務化の義務違反の罰則があるはずであり、それを行き当たり前にすれば広められるはずである。狂犬病のワクチンは 3 年有効と聞く。欧米でも 3 年が当たり前になっているのに、日本では 1 年で、過剰接種で負担が多い。3 年に変え、接種率を高めるのが筋である。
- (36) 登録時だけでなく、毎年の接種時期に合わせて、市町村から郵送や電子メール、LINE など複数の方法で案内することが効果的だと考えます。また、「法律上の義務」であることだけでなく、「家族や地域社会を感染症から守るための予防である」という意義を、分かりやすい事例やイラストを用いて周知することも重要です。
- (37) 動物を飼ったことがないので分からないが、飼い始めるときに申請するシステムや、一度注射を受けたら自動車免許証のようにお知らせが届くようなシステムになっているのか調べてみたい。
- (38) 狂犬病予防は重要な制度であり、今後も継続すべきと考えます。一方で、小型犬や高齢犬などでは副反応を心配する飼い主もいます。副反応に関する正確な情報提供や、健康状態に応じた接種猶予制度の周知、相談体制の充実など、飼い主が安心して判断できる環境づくりを進めていただきたいと思います。
- (39) 災害時、ペット同伴の避難所が少ないです。車を持ってないので車中泊なども出来ません。もし今住んでいる所が崩壊するのであれば、一緒に建物の下敷きになります。それ程大事に家族として迎えてる人が居ることを知って欲しいです。
- (40) 飼っている犬は、予防接種による副作用があったため、接種を見合わせています。狂犬病予防接種は大切な制度であることは理解していますが、副作用に対する不安を感じている

飼い主もいます。そのため、副作用に関する情報や発生頻度、接種のメリット・デメリットについて、分かりやすく情報提供してほしいです。また、副作用が心配な犬への対応や、獣医師に相談しやすい体制を充実させることで、飼い主が安心して判断できる環境づくりを進めてほしいと思います。野良猫によるふん尿被害に困っています。自宅敷地内でふんをされることが多く、悪臭や衛生面でも大きな負担になっています。動物愛護は大切ですが、地域住民の生活環境とのバランスも重要だと思います。野良猫の適正管理や不妊・去勢手術の推進、飼い主への適正飼育の啓発など、ふん害対策をさらに強化してほしいです。

- (41) 狂犬病予防の啓発を継続するとともに、動物の適正飼養や終生飼養について、より積極的に情報発信していただきたいです。また、保護犬・保護猫の譲渡支援や、不妊・去勢手術への支援、マイクロチップの普及を進めることで、不幸な動物を減らす取組を期待します。飼い主のマナー向上につながる啓発活動も充実させてほしいです。
- (42) 狂犬病の注射は土日によってほしい
- (43) 昭和の時代に比べて、福岡市内では、野良犬を見かけることはまったくなくなった。なので、狂犬病予防接種を1年に1回受けないといけないとは、全く考えてもみなかった。これは飼い犬に対してだと思いますが、実際に野良犬がいた場合はだれが予防接種をうけさせるのだろうか？その点がわかりません。また、野良猫はよく街中で見かけることが多く、地域猫として耳に記しがある猫も見かけたこともある。その猫たちに餌をあげている高齢者もよく見かける。たとえ低所得者でも猫に餌をあげる理由は、一人暮らしの寂しさからとか、動物に癒されたいとか、良いことを行ないたいとか、のようです。野良猫をすぐに撲滅は難しいでしょうから地域猫にしているのだと思いますが、動物愛護からの観点からみると、生殖機能を無くすので良い事が疑問である。
- (44) ペットの幸せは飼い主次第だと思っています。人に危害を加えれば速攻それなりの処分があるでしょう。ペット需要は高まりつつありますが愛玩がほとんどで生命を預かる、その子の一生を託されるという大事な覚悟や認識が欠けている飼い主もしばしば。殺処分の数を減らす為にも生命の尊さと飼い主としての責任の重さを人間がまず学ぶ所からスタートすべきだと感じます。
- (45) 譲渡会などは積極的に人の集まる場所で行ってほしいと思う。子どもの数よりもペットの数が上回る時代になったことで、問題も増えてきていると感じる。これは県の問題だけでなく、ペットショップの規制など国が法改正などでできればと感じます(難しいですが)ペットショップではなく、先ず譲渡会などで今ある命を優先して保護してペットとして迎え入れるという考えが浸透していくという考えになるような活動が必要であると考えます。
- (46) ペットに対する思いや飼い方も人それぞれで、介入するのが難しいところではあると思います。ただ、猫に関しては、10年以上前は福岡は捨て猫の殺処分数がかなり多かったと聞きましたが、現在は行政やボランティア等の活動のおかげでかなり減ったと聞いたことがあります。狂犬病予防注射の接種率が58.7%というのに驚きました。法律で義務付けられていることやリスクを今一度、病院やペットショップ、サロン、フードメーカーなどが地道に案内していくことが大事だと思います。
- (47) 近所に猫にご飯はあげているけど手術をしてくださらない方がいます。周囲は糞尿や発情期の鳴き声に悩まされていますが近所なので意見を言いにくいのです。野良猫にご飯を与えるという行為が結果的にはかわいそうな猫を増やしているということを周知させるチャ

シなどを回覧板や配布などで目に留まるようにできないでしょうか。

- (48) 最近は少なくなりましたが、地域で見かける猫をどう扱っていくかが難しいと思います。保護するにもなかなか捕まえられません。なんとなく餌をやる人がいて地域猫とはいえず、自宅の庭に糞があるのも困ります。見るとかわいそうでどうしてあげたらいいかと思います。
- (49) 高齢者の方と接する機会が多いのですが、寂しさもあるのか新しくペットを飼育される方が結構多くいらっしゃいます。皆様からお話を聞くと、やはり自分たちが亡くなった後に飼育しているペットはどうなるのか不安みたいです。そのようなご家庭に向けた相談会などを設けて欲しいです。
- (50) ここまで書いて県の動物愛護センターと市町村でボランティアで行われている譲渡会などの組織としての連携はあるのだろうかとの疑問を持ちました。
- (51) 動物愛護は飼い主だけでなく地域全体で取り組む課題だと思います。特に災害時のペット同行避難や、多頭飼育問題への支援を充実させていただきたいです。また、犬を飼い始めた時点で狂犬病予防接種の義務を確実に伝えられるよう、動物病院やペットショップとの連携をさらに強化してほしいと思います。
- (52) 愛犬家が増えて、犬の性格が良くなっているのを感じます。一番迷惑しているのは、散歩時の糞の放置が時々見られることです。
- (53) 動物に優しい社会になってほしい。野良猫でも一つの命なので、敵対心だけでなく愛護の心を持ってほしいと個人的には思います。猫を飼っていることもありまして。
- (54) 犬など動物全般が苦手です。リードなしの散歩、排せつ物の処理など条例を厳しく策定してほしい。
- (55) 施設に入所している母が、スタッフの方が連れて来られる犬にととても癒されているとの話を聞きました。高齢者にペットとの触れ合いは貴重な経験のようです。そのようなボランティアをするペットが増えて欲しいと思います。ただ、飼い主のモラルには、個人によるところも大きいと思いますが、人によって大きな差があると思う。道端に糞が放置されている時は、本当に腹立たしい。マナー向上をもっとPRして欲しい。
- (56) 狂犬病予防については、まだ認知度が低いと感じます。犬の飼い主が確実に気づけるよう、国や自治体から定期的に案内を送付したり、ペットフードのパッケージやペットショップなど、飼い主が必ず目にする場所で周知を行うとよいと思います。身近な場所で繰り返し情報を発信することで、狂犬病予防への意識が高まり、接種率の向上につながると考えます。SNS や動画を活用し、「なぜ狂犬病予防接種が必要なのか」を分かりやすく伝え、若い世代にも理解が広がると思います。
- (57) 飼い主のマナー違反。特に猫の糞の始末ですね。猫は自由に出歩きますから飼い主がしっかり糞をする必要があると思います。
- (58) 福岡県の接種率も全国平均と比べて低いようです。まずは接種率の高い他県の取り組みを取り込んだらどうでしょうか。
- (59) 狂犬病の予防接種率がまさか半分とは驚きでした。子どももつい可愛いと動物と触れ合ってしまいますよね。狂犬病は治らない病気だと認識しており、致死率もほぼ100%、大変危険な状態だと思います。狂犬病がどれほど怖い病気を広く知らせていくとともに、狂犬病の予防接種を受けさせていない飼い主には罰則を与えるくらいの厳しい姿勢が県とし

でも必要だと思います。

- (60) ペットを購入しても最後まで見届けられず、放置や捨てる行為が後をたちません。飼う以前からの意識改革が求められるため、SNS 上や県ホームページでの呼びかけ、広報活動を推進していくようお願いしたいです。
- (61) 狂犬病予防接種の大切さを今後も広く知らせていただきたいです。また、犬や猫を最後まで責任を持って飼うことや、捨てられる動物が減るよう啓発活動を続けていただけるとよいと思います。
- (62) 狂犬病予防については、飼い主が予防接種や登録を確実にできるよう、分かりやすい情報発信や通知の充実を進めていただきたいです。動物愛護については、飼い主の責任ある飼育を促す啓発活動を継続するとともに、犬や猫の適正飼育、不妊・去勢手術の普及、マイクロチップの装着促進などに力を入れることで、飼育放棄や迷子、殺処分の減少につながると考えます。また、保護団体や地域ボランティアとの連携を強化し、保護された動物の譲渡支援や新しい飼い主への情報提供を充実させることも重要です。あわせて、ペットを飼わない人にも配慮し、ふんの放置や鳴き声などのマナー向上に関する啓発を進めることで、人と動物が共生しやすい地域づくりを期待します。
- (63) 鳥獣保護法違反の解釈を広げ、飼育動物へのネグレクトに当てはめて条例を作れないか？保護に関する取り組みは進んでいて素晴らしいと思うが、飼育者に対する罰則や禁止規定は作れないのだろうか？またはもうあるが実効していないのか？
- (64) 恥ずかしながら動物愛護についての取り組みをはじめて知りました。古賀市だけでなく県全体でこの活動についてアピールしていただき、それをきっかけにボランティアに関心を持つ人が増えたら、人も犬も猫を幸せにならないかなと思います。
- (65) 犬と猫の対応の違いに、素人ながら、懸念がある。同じペットなので、責任は一緒。猫の、放し飼いは、認められない事は犬と同じはず。飼う人の認識が、甘すぎる。
- (66) 大阪と比べて福岡は圧倒的に野良猫が少ないと感じています。これは自治体の対策や取り組みが相当うまくいっているからではないかと思いますので、現状の施策を今後もぜひ継続してってください。
- (67) 狂犬病の恐さを知らない飼い主に対して啓発活動の場面を増やしていくしかないのと、動物が好きなのと飼うことは生き物を扱うことの責任の重さを知らせる活動ももっと必要だと思う。
- (68) 狂犬病予防注射率が6割を下回っているのは驚きました。私は犬を買っていないのでよく分からないのですが、費用負担がその要因だとしたら、助成制度などがあれば良いと思いました。
- (69) 動物を飼えるのは生活に余裕がある人だと思います。県民のどれくらいが飼っていて、どれくらい困っているか分かりません。狂犬病の普及は大切です。愛護団体をもっと強化していけば良いのでは？
- (70) 野良猫や野良犬にエサをやる人に対する対策を考えていただきたい。春日市の白水大池公園にいる野良猫対策は春日市の管轄ですが、県と連携されていますか？”
- (71) ペットショップを減らすべきだと思います。まずは可哀想な状況のペットを減らすことです。ペット安く簡単に買ってしまう状況に危機感を覚えます。他の県がやっていないことをやってみてほしいと思います。

- (72) 私は保護猫と暮らしている。犬とは暮らしたことがないが、トリミングサロンやドッグランなどに行く飼い主は狂犬病注射をしていると思われる。やらなければいけない狂犬病注射をやっていない飼い主は自覚が足りない飼い主と思われるので、県政だよりなどに掲載してもそもそも見ないと思う。集合住宅の掲示板も同じである。エレベーターの開閉ボタンなどの近くに、「年に一度の狂犬病注射を忘れずに」などのステッカーを貼ると、見ていないと言い逃れが出来ないのでまだマシかと思う。あとは、福岡県の獣医師会と連携して、この期間は狂犬病予防注射が1,000円引きなど告知したら少しは違うのかも。お試してやってみて接種率が上がるといいが…。保護猫などの譲渡も、高齢者では難しいと思うが、テレビなどで最近よく見るのが高齢猫と高齢者を繋ぐ譲渡の取り組みが増えているということ。福岡県でも前向きに考えてみてはどうか。
- (73) 買う時、譲渡する時の登録を強化するしかないのでは？
- (74) 空き家が、多くなっている所を解放してペット支援施設に使う事を進めたい。古いマンションの入渠率を上げる為に『ペット可能』にしてペット住所録を届けさせる。そもそも人間同様にペットのワクチンも薬害が出ている個体も多いので強制はしなくてもいいと思う。
- (75) 次の飼い主へつなぐ「愛の引き継ぎ制度(譲渡・後見)」福岡県版「ペット後見制度・一時保護ネットワーク」の構築。
- (76) 概要:「万が一自分が飼えなくなった場合」に備え、行政(動物愛護センター)と認定NPO、民間事業者が連携し、所有権の移転や譲渡先を事前契約しておく仕組み。
- (77) 具体策:生前整理や終活相談の窓口(地域包括支援センター等)に、ペットの引き継ぎに関する専門相談員を配置。高齢者でも安心して譲渡を受けられるよう、万が一の再引き取りを保証した「高齢者どうしの相互支援・シニア里親制度」の条件緩和・サポート体制を整備しておく。
- (78) 最近、住居の近くは野良猫だらけで困っています。勝手な餌やりをしている方がいて猫が人慣れしてマンション敷地内に入ってくる状態です。餌やりしている方は不妊去勢を支援していてその後の見守りだとか。マンションは飼育禁止だから微妙な位置、県道？市道？側道や用水路で水やり餌やりをされているようです。猫は嫌いではなかったのですが今はストレスになっています。県や市、地域の連携で見回り、見守り、対策を講じていただきたいと切に願います。
- (79) 散歩させる人は自宅で排泄を義務付ける。県民のマナーが悪すぎる。罰則を設けると。
- (80) 身近に保護猫をお世話している人がいますが、近所の方は迷惑していないかなど気になります。
- (81) 狂犬病予防接種率がこんなに低いとは知りませんでした。広報活動の方法検討必須ですね。
- (82) 不妊去勢をしていない野良猫や高齢者が体調崩しても自宅に多数の猫で困ってる状況が多いです。支援や補助はあるようですが、市によって差があるように思います。もっと補助や要件緩和されたいと思います。
- (83) ペットを飼わない人にとって、動物の問題はあまり日常的でない。子どものうちに、学習しておくとういのかもしれない。
- (84) 不幸な子猫がどんどん増えていっている現状を変えてください。無責任な野良猫への餌

やり、不妊去勢手術をしていない猫を外で飼う人への正しい情報を流してください。高齢者の多くが昔の猫の飼い方をしています。県から、一度も猫の正しい飼い方のお知らせがありません。野良猫への正しい接し方などもテレビやニュースで繰り返し啓発してください。保健所が野良猫を引き取らない、殺処分しないなら、不幸な子猫が生まれている蛇口を閉めてください。蛇口を閉めないで、このまま保護猫の飼い主になってくださいと言いつけることには無理があります。まずは、野良猫が増えないようにどんどん不妊去勢手術を進めてください。猫の数が落ち着くまで、子猫を保健所で引き取ってください。

- (85) 狂犬病は怖い病気だと思う。ペットを飼っていない私でも知っていることなので、もっとワクチン注射率を上げてもらい、ひとへの感染リスクをもっと減らしてもらえるように活動して欲しいと思う。ペットを飼っている人もしっかり把握してほしい。
- (86) ペットショップ等に行く方は、きちんとルールを守れる方が多いのでは？田舎の方では、野良猫へのエサやりを当たり前のようにしている高齢者が多いです。貼り紙位では気にせずにあげています。
- (87) 野良猫が多く、飼い猫も放し飼いが多い地域に住んでいる。あまり猫が好きではないのと、何か病気を持っているのではと近づきたくなく、できることならどこかで保護して野良を無くして欲しいと思う。また放し飼いで、そこらで糞をしているのが嫌なので、飼い主への指導は処罰も考えて欲しい。
- (88) 予防の大切さをもっともっと知らしめない人には罰則を設けるべきだと思います。
- (89) 他の犬と関わらないのであれば、未接種でも良いという間違った知識を持っている飼い主もいるため、正しい知識を広めるべきだと思う。
- (90) 現実的には難しいと思いますが、高齢者で以前飼っていた人が長期的には難しくても犬と暮らしたい場合にレンタル犬があったらどんなに良いかと思います。
- (91) 譲渡会をもっと開催してほしい。
- (92) 狂犬病のワクチンは国が定めた義務ですよね？福岡県が接種率が低い理由は为什么呢。他県はどのような取り組みをされているのか。ワクチンの助成があると接種に行くのか？初年度から3年は助成がありますとか…。
- (93) 現在、八女市の保護猫団体に時々ボランティアとして、お手伝いに行っていますが、多頭飼育崩壊現場で保護されている猫等が、増えているのが現状で、餌付けはするが、避妊、去勢をしないといけないということを、知らない人が多すぎて、大変な事になっています。県は、保護猫団体活動をしている代表の方に、現状と問題を聞いて真剣に取り組まないといけないと思います。
- (94) 狂犬病の致死率は100%であること、それがどんなに恐ろしいことかを飼い主は理解できたら摂取しない選択はないと思う。接種費用についても講習会参加で減額チケットが出るなど、周知するきっかけ作りも必要と思う。
- (95) 誰でも低価格で入れる保険の充実を望む。またネットでの病気の相談窓口を増やしてほしい。
- (96) 今後、飼い主の高齢による飼育放棄など増えると思うので、対策強化をしてほしいです。